

<p style="text-align: center;">国語 I (Japanese I)</p>	<p style="text-align: center;">1 年・通年・3 単位・必修</p> <p style="text-align: center;">5 学科共通 担当 武田 充啓</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (3)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>中学校での学習内容を踏まえ、受講生一人一人の日本語運用能力を総合的に高めることが授業の目的である。そもそも、日本語を「運用」する上で必要な力とはどのようなものか。語彙力、表現力、論理性、説得力…など、情報を「伝える」ためには様々な力が必要である。また、相手から情報を「受け取る（読み取る・聞き取る）」ためには、理解力や共感力などの力も必要になる。さらに、自分が受け取った情報の真偽を確かめるためにも、それを自分の言葉で発信する機会を持ちたい。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>高等学校第 1 学年に相当する学力を身につけるため、高等学校用の教科書を使用し、様々な文章を読んだり、議論をしたりすることを通して、多様なものの見方・考えに触れる。自分が感じたり、考えたりしたことを口頭や文章によって表現する機会、クラスメイトの意見や考えに触れ、検討や議論を通して自分の考えを深める機会をもつ。週 3 時間のうち、2 時間を現代文、1 時間を古典（古文・漢文）の時間に当てる。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>現代文については予習プリントを配布するので、授業前に教科書を読み、意味調べを行うこと。ディベートや作文・話し合いの時間が有効に使えるよう、問題意識を持って新聞や本を読んだり、自分や自分の身の回りの世界に目を向けたりしてほしい。</p> <p>古典については事前にノートに教科書の本文を写すなど予習を必ず行うこと。定期的に提出する機会を設ける。そして、意味がわからないと思ったところを授業で確かめるようにするとよい。家庭学習用に下記ワークブックを適宜使用する。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 文章を主体的に読解できる。3) 古文を正確に音読できる。4) 古文の内容を現代語でまとめたり表現したりすることができる。</p> <p>前期末試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 文章の主題をつかむことができる。3) テーマに応じた意見文が作成できる。4) 古典文法の知識を身につける。5) 漢文訓読の知識を身につける。</p> <p>後期中間試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 論理的な文章の構成がつかめる。3) 古文のテキストの意味を読み取り、説明することができる。4) 漢詩の基礎知識を身につける。5) 漢文の内容を理解し、中国思想についての基礎知識を身につける。</p> <p>学年末試験： 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 文章の論理展開をつかむことができる。3) 歌物語の特徴を味わい、内容を読みとることができる。4) 登場人物の心情を説明できる。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績（60％）を基本とし、漢字テスト（10％）、提出物（ノート・課題）の状況（15％）、授業態度（音読・発表への取り組み姿勢 15％）を加えて総合的に評価を行う。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>第一学習社『高等学校 国語総合』</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「新国語便覧（新版二訂）」、「新版高校漢字必携」、「完全マスター古典文法準拠ノート〈実力養成〉」（以上全て第一学習社）、その他独自補助教材</p> <p>国語辞典を一冊準備しておくこと（電子辞書でもよい）。</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>日本語運用能力は、人文科学や社会科学系ばかりでなく、自然科学系科目の基礎でもある。</p>		

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第1週	ガイダンス	授業の目的や進め方を理解する。自己紹介スピーチを行う。 ノートの取り方を確認する。古典の表記について理解する。	
第2週	評論1-① 古文入門①	山崎正和「水の東西」の全体を捉える。図書館ガイダンス 「兄のそら寝」を読み、仮名遣いや発音に慣れる。	
第3週	評論1-② 古文入門②	山崎正和「水の東西」を読み、文化の「東西」について考える。 「絵仏師良秀」を読み、品詞や活用など古語の文法を意識する。	
第4週	小説1-① 物語を楽しむ1-①	芥川龍之介「羅生門」の構造を理解する。作者について知る。 『竹取物語』の「なよ竹のかぐや姫」を読み、文学史的な知識を身につける。	
第5週	小説1-② 物語を楽しむ1-②	芥川龍之介「羅生門」を読み、主人公の状況、表現から読み取れる心情を考える。 『竹取物語』の「なよ竹のかぐや姫」を読み、テーマを理解する。	
第6週	小説1-③ 物語を楽しむ1-③	芥川龍之介「羅生門」を読み、登場人物の「論理」を考える。 『伊勢物語』の「あづま下り」を読み、文学史的な知識を身につける。	
第7週	小説1-④ 物語を楽しむ1-④	芥川龍之介「羅生門」の主題を考える。 『伊勢物語』の「あづま下り」を読み、テーマを理解する。	
第8週	試験返却・評論2-① 古典文法①	中間試験返却・香山リカ「空気を読む」の全体を捉える。 古典文法の知識を身につける（品詞など）。	
第9週	評論2-② 古典文法②	香山リカ「空気を読む」を読み、「空気を読むこと」の問題点について考える。 古典文法の知識を身につける（動詞の活用など）。	
第10週	評論2-③ 古典文法③	香山リカ「空気を読む」を読み、意見を交換する。 古典文法の知識を身につける（形容詞・形容動詞の活用など）。	
第11週	言語活動1-② 古典文法④	俵万智「短歌を詠す」を読んで、実際に短歌を作る。 古典文法の知識を身につける（助動詞の活用など）。	
第12週	言語活動1-③ 古典文法⑤	作った短歌をお互いに評価する。 古典文法の知識を身につける（助動詞、注意すべき表現など）。	
第13週	小説2-① 漢文入門①訓読の基本	村上春樹「鏡」の構造を理解する。作者について知る。 漢文訓読の基本的な知識について確認する。	
第14週	小説2-② 漢文入門②再読文字・置き字	村上春樹「鏡」を読み、状況の変化と「私」の心情の変化を確認する。 漢文の格言を読み、漢文の訓読に慣れる。	
第15週	言語事項 漢文入門③故事成語	村上春樹「鏡」の主題を考える。 故事成語の由来を読み、おもしろさを理解する。	
前期期末試験			
第16週	試験返却・評論3-① 物語を楽しむ2-①	期末試験返却・柏木博「しきり」の文化論の全体を捉える。 『平家物語』『祇園精舎』を読み、文学史的な知識を身につける。	
第17週	評論3-② 物語を楽しむ2-②	柏木博「しきり」の文化論の構造を考え、前半の論理展開を確認する。 『平家物語』『祇園精舎』を読み、テーマを理解する。	
第18週	評論3-③ 物語を楽しむ2-③	柏木博「しきり」の文化論の構造を考え、後半の論理展開を確認する。 『平家物語』『木曾の最期』を読み、和漢混淆文の韻律を味わう。	
第19週	評論3-④ 物語を楽しむ2-④	柏木博「しきり」の文化論における筆者の主張をまとめる。 『平家物語』『木曾の最期』を読み、軍記物語の特徴を理解する。	
第20週	小説3-① 物語を楽しむ2-⑤	森鷗外「高瀬舟」の構造を理解する。作者について知る。 『平家物語』『木曾の最期』を読み、状況を読み取る。	
第21週	小説3-② 物語を楽しむ2-⑥	森鷗外「高瀬舟」の表現に注目して、主人公の人物像を読みとる。 『平家物語』『木曾の最期』を読み、武士たちの人間像にふれる。	
第22週	小説3-③ 物語を楽しむ2-⑦	森鷗外「高瀬舟」の後半の展開を予想しながら、主体的に読む。 『平家物語』『木曾の最期』を読み、義仲と兼平の心情を読みとる。	
第23週	小説3-④ 物語を楽しむ2-⑧	森鷗外「高瀬舟」の主題を考える。 『平家物語』『木曾の最期』を読み、主題について考える。	
第24週	試験返却・評論4-① 史話を読む①	中間試験返却・四方田犬彦「かわいい現象」を読み、表現について考察する。 「先從隗始」を読み、人の生き方や考え方について学ぶ。	
第25週	評論4-② 史話を読む②	四方田犬彦「かわいい現象」を読み、表現について考察する。 「先從隗始」を読み、人の生き方や考え方について学ぶ。	
第26週	評論4-③ 漢詩の鑑賞①	四方田犬彦「かわいい現象」を読み、表現について考察する。 「静夜思」「登鸛鵲樓」を読み、漢詩の知識を身につける。	
第27週	小説4-① 漢詩の鑑賞②	志賀直哉「城の崎にて」の構造を理解する。作者について知る。 「江雪」「送元二使安西」を読み、漢詩の知識を身につける。	
第28週	小説4-② 漢詩の鑑賞③	志賀直哉「城の崎にて」を読み、語り手の状況・心情を表現から読み取る。 「涼州詞」「春望」を読み、それぞれの詩に込められた思いを読みとる。	
第29週	小説4-③ 中国の思想①	志賀直哉「城の崎にて」を読み、語り手の「死」のとらえ方をまとめる。 『論語』を読み、孔子の思想について理解する。	
第30週	小説4-④ 中国の思想②	志賀直哉「城の崎にて」の主題を考える。 『論語』を読み、孔子の思想について理解する。	
学年末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">地 理 (Geography)</p>	<p style="text-align: center;">1 年 ・ 通 年 ・ 2 単 位 ・ 必 修 電 気 工 学 科 担 当 桑 原 英 之</p>	
<p>〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>世界でも、日本でも、その土地ごとに固有の自然環境や地理的状况とそれに根ざした文化と生活が必ずある。地理の授業では、各地域の地理的状况を理解すると共に、それらもとづいた地域の文化、産業、生活の現状と課題について考える力を身につけることを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>地図を使いこなしながら、自然、環境、歴史、政治、文化など、理系的知識も文系的知識も両方を総合的に活用していく。そのために、「自然と生活との関わり」や「世界の諸地域」の特徴、さらには日本をとりまく「近隣諸国」の特徴を捉える。また、それらが地球的な課題とどのように結びつくのか、教科書第4部を適宜参照しながら考えていく。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布するプリントは必ず各自ファイルすること。定期試験勉強で必要となる。 ・地図の参照が必須である。地図帳は教科書とともに毎回持参し、必要に応じて様々な情報について自ら調べる習慣を身につけること。 		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前期中間試験：世界の地形について理解する ● 前期末試験：世界の気候、資源と産業について理解する ● 後期中間試験：資源の生産と消費、工業製品の生産と流通について理解する ● 後期期末試験：国家規模の地域、州大陸規模の地域、近隣諸国について理解する 		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績（80％）にレポート点（20％）を含めて総合評価する。レポート課題は内容もさることながら、体裁が整っているか、要項を遵守しているかどうかにも重視する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>①『新詳地理B』、帝国書院 ②『標準高等地図 -地図でよむ現代社会』初訂版、帝国書院</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>②1:25,000 地形図「大和郡山」国土地理院発行 ②配布プリント教材</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>「歴史（世界史）」「歴史（日本史）」「政治・経済」と関連が深い。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	イントロダクション	この授業の概要、	
第2週	地図の基本	地形図の見方と地図の基本を理解する	
第3週	世界の地形①	世界の大地形、プレート運動とさまざまな協会について理解する	
第4週	世界の地形②	火山、安定陸塊について理解する	
第5週	世界の地形③	外的営力と地形形成について理解する	
第6週	世界の気候①	気候の成り立ちについて理解する	
第7週	世界の気候②	ケッペンの気候区分を理解する	
第8週	世界の気候③	熱帯、亜熱帯、乾燥地帯、温帯、冷帯、ツンドラについて理解する	
第9週	植生と土壌	気候と植生、土壌の関係について理解する。	
第10週	日本の自然の特徴と生活①	プレート境界、構造線と日本列島について理解する	
第11週	日本の自然の特徴と生活②	日本における気候、季節変化と災害の関係について理解する	
第12週	環境問題	世界の環境問題について理解する	
第13週	資源と産業①	農業の形態や分類について理解する	
第14週	資源と産業②	農産物の生産と流通について理解する	
第15週	資源と産業③	農業の課題について理解する	
前期期末試験			
第16週	資源の生産と消費①	エネルギー・鉱山資源の利用と分布および課題について考える	
第17週	資源の生産と消費②	日本の資源問題について考える	
第18週	工業製品の生産と流通①	工業の発達と立地、世界の工業地帯について理解する	
第19週	工業製品の生産と流通②	現代世界の工業の現状と課題を考える	
第20週	工業製品の生産と流通③	日本の工業の特徴と課題について考える	
第21週	現代世界の諸地域①	アングロアメリカについて理解する 1	
第22週	現代世界の諸地域②	アングロアメリカについて理解する 2	
第23週	現代世界の諸地域③	南アジアについて理解する	
第24週	現代世界の諸地域④	西アジア・中央アジアについて理解する	
第25週	現代世界の諸地域⑤	ヨーロッパについて理解する	
第26週	現代世界の諸地域⑥	東南アジアについて理解する	
第27週	現代世界の諸地域⑦	東アジアについて理解する 1	
第28週	現代世界の諸地域⑧	東アジアについて理解する 2	
第29週	現代世界の諸地域⑨	ロシアについて理解する	
第30週	現代世界の諸課題	現代世界の国家と課題について理解する	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

数学α (Mathematics α)	1 年・通年・4 単位・必修 機械, 電気工学科 担当 市原 亮 電子制御, 情報, 物質化学工学科 担当 梅本 悠莉子	
[準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標] (2)		
[講義の目的] 科学や工学から生まれた多くのアイデアは数式によって表すことができる。数学という学問の大きな目的の一つは、その数式を解き明かすことで科学や工学をより深く理解することにある。「数学 α 」では基本的な数学的思考を養うとともに、複雑な式を正確に扱える計算力を培う。		
[講義の概要] 中学校で学んだ文字の計算・方程式・関数の考え方をさらに深めて、様々な形の方程式や不等式の解法を学ぶ。また、物理・化学・専門科目・2年生以降の数学を学習する上での基礎となる新しい関数(分数関数・無理関数・指数関数・対数関数・三角関数・逆三角関数)を学習する。		
[履修上の留意点] 数学は抽象的な学問であるため、わかりにくいと感じられることが多い。そのようなときは、できるだけ例題や問題集に挑戦しながら具体的に考えていくことを勧める。また、数学の理解の仕方は千差万別であるため、自分なりに理解出来るまで、教科書とノートを見て地道に繰り返し、復習をすることが必要である。もちろん、授業中や放課後に担当教員へ質問をすることも理解を深めるために大切なことである。 初めはわからないことが多くても、集中して自分の頭で考え、悩みぬいた経験があれば、数週間後あるいは数ヶ月後、数年後には細かいところもスムーズに納得できるようになるものである。そして、計算の仕方とその仕組みがわかるようになれば、数学は非常におもしろい学問となる。		
[到達目標] 前期中間試験： (1) 整式の展開と因数分解 (2) 分数式の計算 (3) 絶対値を含む式の計算 (4) 平方根を含む式の計算 前期末試験： (1) 因数定理の理解 (2) 高次方程式の解法 (3) 分数関数・無理関数のグラフと方程式の解法 (4) 逆関数と合成関数を求める 後期中間試験： (1) 指数法則、対数の性質を使った計算 (2) 指数関数・対数関数のグラフと方程式、不等式の解法 (3) 常用対数を使った計算 (4) 三角関数(三角比)の理解と計算 学年末試験： (1) 正弦定理と余弦定理の利用 (2) 一般角の三角関数の理解とグラフおよび方程式、不等式の解法 (3) 加法定理といろいろな公式を使った計算		
[評価方法] 定期試験の成績(60%)に、これ以外の小テスト・課題レポート・授業への取り組み(40%)を加えて総合的に評価する。		
[教科書] 「新版 基礎数学」, 実教出版, 岡本和夫 監修 [問題集] 「新版 基礎数学 演習」, 実教出版, 岡本和夫 監修		
[関連科目・学習指針] 「数学 α 」で学ぶ内容は、「数学 β 」でも使われる。さらに物理、化学、専門科目および2年生以降における数学の学習の基礎となる。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	整式の加法・減法・乗法	整式の加減乗法による結果を降べき(昇べき)の順に整理する。	
第2週	整式の展開公式	展開公式を使って、いろいろな式の展開を計算する。	
第3週	整式の因数分解	因数分解の公式を使って、いろいろな式の因数分解を計算する。	
第4週	整式の除法・約数・倍数	数字(整数)と同様に整式の割り算をする。約数・倍数も求める。	
第5週	分数式	数字(整数)と同じように整式の分数の計算をする。	
第6週	実数の分類と絶対値	有理数と無理数を理解し、場合分けを使って絶対値を定義する。	
第7週	平方根を含む式の計算	平方根を理解して、分母を有理化する。	
第8週	まとめと演習		
第9週	恒等式	恒等式の性質を理解して、分数式を部分分数に分解する。	
第10週	剰余の定理・因数定理	剰余の定理、因数定理を使って、余りの計算と因数分解をする。	
第11週	高次方程式	因数分解の公式と因数定理を使って3次と4次の方程式を解く。	
第12週	等式・不等式の証明	等式と不等式の証明方法を理解し、証明の書き方を身につける。	
第13週	関数とグラフ	べき関数、分数関数、無理関数とそのグラフについて学ぶ。	
第14週	逆関数・合成関数	逆関数の定義とその性質を理解して、合成関数も求める。	
第15週	まとめと演習		
前期末試験			
第16週	指数の拡張	累乗根を理解して、指数が有理数の場合の計算をする。	
第17週	指数関数とそのグラフ	指数関数のグラフの特徴を理解し方程式・不等式の問題を解く。	
第18週	対数とその性質	対数の定義と性質を理解して、対数の計算をする。	
第19週	対数関数とそのグラフ	対数関数のグラフの特徴を理解し方程式・不等式の問題を解く。	
第20週	常用対数	常用対数を利用して、応用問題を解く。	
第21週	鋭角の三角比・その拡張	三角比の定義とその性質を理解して、問題を解く。	
第22週	まとめと演習		
第23週	正弦定理と余弦定理	正弦定理と余弦定理を理解して、三角形の面積を求める。	
第24週	一般角と弧度法	一般角や弧度法の定義を理解して、計算をする。	
第25週	三角関数	一般角の三角関数の定義と性質を理解して、問題を解く。	
第26週	三角関数のグラフ	三角関数のグラフの特徴を理解して、グラフを書く。	
第27週	方程式・不等式・逆関数	三角関数の方程式と不等式を解き、逆三角関数についても学ぶ。	
第28週	加法定理	加法定理を導き、加法定理を使って計算をする。	
第29週	加法定理の応用	加法定理から導かれる公式を使って計算をする。	
第30週	まとめと演習		

* 4:完全に理解した, 3:ほぼ理解した, 2:やや理解できた, 1:ほとんど理解できなかった, 0:まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">数学β (Mathematics β)</p>	<p style="text-align: center;">1 年・通年・2 単位・必修 機械, 電気, 電子制御, 情報, 物質化学工学科 担当 荒金 憲一</p>	
<p>〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 数学はあらゆる科学の基礎になっており、自然科学でも社会科学でも数学の知識なしでは学ぶことができない。数学βでは、基本的な数学的思考力を養うと共に、十分な計算力を培う。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 次方程式・不等式の解法を理解し、2 次関数のグラフと方程式・不等式の解との関係を調べる。 ・ 平面上の直線、円の性質を調べ、2 直線の平行・垂直などの関係、直線と円との関係を調べる。 ・ 2 次曲線（放物線・だ円・双曲線）の基本的な性質を調べる。 ・ 集合の基礎・個数の数え上げ・命題と証明を学習する。 		
<p>〔履修上の留意点〕 数学の内容は抽象的なため、分かりにくいことが多いようです。最初から記号や言葉の意味を頭で理解しようとせずに、出来るだけ具体的な問題(例題)を通して、手を動かしながら考えていくことを勧めます。細かいことを気にせずに、大筋をつかむように勉強していくとよいでしょう。計算の仕方と理論がわかれば数学は非常におもしろいものです。そのためには、授業中、集中して自分の頭で理解すること。手を動かすこと。ノートを書きただけでは、理解したことにはなりません。自分なりに内容をかみくだいて納得できるまで、頭を働かせることが重要です。そして、宿題で出される問題を時間をかけてこつこつと解いていくことが大切です。復習を主とする地道な家庭学習を心がけて下さい。疑問点がある場合には授業中だけでなく、質問に来て下さい。難しいと思うことも必死にやってみればやさしくなってくる。</p>		
<p>〔到達目標〕 何となく理解するのではなく、自力で問題が解けなければ意味がありません。教科書の問題と問題集の A 問題が完全に解けること。</p> <p>前期中間試験：(1) 2 次関数のグラフとその平行移動 (2) 2 次関数の最大値・最小値 (3) 平方根と複素数の計算、展開・因数分解を理解して 2 次方程式を解く</p> <p>前期末試験：(1) 2 次方程式の判別式、解と係数の関係 (2) グラフで 2 次不等式を解く (3) 内分と外分 (4) 直線のグラフと式との関係を理解する</p> <p>後期中間試験：(1) 円の方程式と接線 (2) 2 次曲線(放物線・だ円・双曲線)の方程式 (3) 不等式の表す領域を図示し、領域における最大値・最小値を計算する</p> <p>学年末試験：(1) 集合の基本的な性質を理解する (2) 順列や組合せの個数を数え上げる (3) 二項定理を理解する (4) 命題と証明の基本事項を理解する</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験の結果(70%)を基本とし、宿題・小テスト・レポート・授業への取り組み(30%)をあわせて総合的に評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 「新版 基礎数学」, 実教出版, 岡本和夫 編</p> <p>〔補助教材・参考書〕 「新版 基礎数学演習」, 実教出版, 岡本和夫 編</p>		
<p>〔関連科目〕 数学βは 1 年生だけでなく 2 年生以降のいろいろな科目と関連している。数学だけでなく物理・化学や多くの専門科目とつながっている。理科や専門科目に興味を持ち、さまざまな事柄を理解して欲しい。グラフを書き、式を計算してその関連を考えて理解を深めて下さい。</p>		

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	基本的な2次関数のグラフ	2次関数 $y=ax^2$ のグラフの性質を復習し、その性質を調べる。	
第2週	2次関数の平行移動	2次関数 $y=ax^2$ のグラフを x 軸、 y 軸方向に平行移動する。	
第3週	2次関数の標準形	2次関数 $y=ax^2+bx+c$ を標準形に変形する。	
第4週	2次関数の最大・最小	2次関数の最大値・最小値について調べる。	
第5週	2次方程式の解法	因数分解や平方根を用いて、2次方程式を解く方法を学ぶ。さらに、それらの応用として2次方程式の解の公式を導く。	
第6週	複素数	2乗して-1になる数 i を導入し、複素数の四則演算を行う。	
第7週	判別式	2次方程式の解が実数であるかどうかの判定を行う。	
第8週	解と係数の関係	2次方程式の係数と2つの解の間にある関係について学ぶ。	
第9週	2次式の因数分解	2次方程式の解を用いて2次式を因数分解する。	
第10週	不等式とその解	不等式の基本性質を学ぶ。また、1次不等式の解を求める。	
第11週	グラフと方程式の解	2次方程式の解と、2次関数のグラフとの関係を調べる。	
第12週	2次不等式の解法	2次関数のグラフを用いて、2次不等式の解を求める。	
第13週	絶対値と方程式・不等式	絶対値を含む方程式および不等式の解を求める。	
第14週	平面上の点の座標	線分の内分点・外分点の座標を調べる。2点間の距離を調べる。	
第15週	直線の方程式	平面上の直線を表す方程式について学ぶ。さらに、2直線の平行と垂直について調べる。	
前期末試験			
第16週	円の方程式	平面上の円の方程式について学ぶ。	
第17週	円の接線の方程式	平面上の円の接線の方程式について学ぶ。	
第18週	放物線の方程式	放物線を定義し、焦点・準線などの性質について学ぶ。	
第19週	だ円の方程式	だ円を定義し、その焦点などの性質について学ぶ。	
第20週	双曲線の方程式	双曲線を定義し、焦点・漸近線などの性質について学ぶ。	
第21週	2次曲線と直線の関係	2次曲線と直線の共有点の個数と図形の移動について学ぶ。	
第22週	不等式の表す領域	不等式・連立不等式を満たす平面上の点の集まりについて学ぶ。	
第23週	領域における最大・最小	領域内の点 (x, y) に対し、 $ax+by$ の最大値・最小値を求める。	
第24週	集合の定義と性質	集合の考え方を理解し、その基本的な性質について学ぶ。	
第25週	要素の個数と場合の数	集合の要素の個数と、ある事柄が起こる場合の数を数える。	
第26週	順列	異なるものを一列に並べる場合の数を求める。	
第27週	組合せ	異なるものからいくつかを取り出して並べない場合の数を求める。	
第28週	二項定理	式 $(a+b)^n$ を展開したときの係数を求める。	
第29週	条件と命題	命題の真偽を判定し、必要条件・十分条件を理解する。	
第30週	命題と証明	命題とその逆・裏・対偶との関係、および背理法を理解する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

物理 I (Physics I)	1 年・通年・2 単位・必修 M・E・C 担当 新野 康彦 S・I 担当 武内 将洋
〔準学士課程(本科1-5年) 学習教育目標〕 (2)	
<p>〔講義の目的〕</p> <p>自然が示す種々な現象には一定の規則性があります。多彩な現象の背後にある法則を探究するのが自然科学で、その基礎となっているのが物理学です。物理の学習の目的は、種々な現象を貫く基本法則や物理概念を記述する数式を見だし、自然の仕組みを系統的に理解することといえます。また科学技術の進展は私たちに多くの恩恵をもたらしている反面、人類の生存に関わる負の遺産も作り出していることにも着目します。即ち、科学的なものの見方考え方(合理性)の上に、自然との共生という視点も重視して講義します。</p>	
<p>〔講義の概要〕</p> <p>1年生では、もっとも基本となる「力と運動」の分野を学習します。ここで学ぶ事柄の多くは物理学の他の分野や工学の各分野での考え方の基本となるのでとりわけ重要な分野です。教科書に準拠して進めますが、教師演示や学生実験を行い、また小テストを適宜実施して理解を促します。</p>	
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>中学理科と違い、物理は暗記科目ではなく、自然現象を論理的に考察して基本法則を見出し、その法則を数理的な手法で表現する学問です。さらに物理現象を記述する概念や公式は多くの工学専門分野で使われる「共通語」になります。適宜皆さんに発問しながら授業を進めます。少しでもよいですから、日々の予習復習を欠かさないことが大切です。疑問点は早目に解決してください。実験室は常に諸君に開放し可能な限り質問に応えるようにしています。夏期休暇を利用した「自由研究」に取り組めるよう援助をします。物理は自然の背後に隠された謎を解き明かしていくロマンに溢れた学問です。常に「なぜ」と問う気持ちを大切にして謎解きの楽しさを味わってください。なお、講義内容はあくまで予定であり、学生の理解度を考慮して、多少の変更をする可能性があります。</p>	
<p>〔到達目標〕</p> <p>全体通して基本法則や物理概念が理解でき、基本的な計算問題が解けることが目標となる。4回の試験ごとの段階では概ね次のようになる。</p> <p>前期中間:速度や加速度の概念を理解し、等加速度直線運動を考察できる。</p> <p>前期期末:力と運動に関する基本法則を理解し、運動方程式を解いて物体の運動を考察できる。</p> <p>後期中間:運動量や力学的エネルギーに関する基本法則を理解し、これらを用いて物体の運動を考察できる。</p> <p>学年末:平面運動における速度や加速度、重力中の放物運動、等速円運動を考察できる。</p>	
<p>〔評価方法〕</p> <p>年4回の定期試験(70%)と小テスト、課題レポートや実験レポート(これらは基本的に宿題とします)、並びに、ノート提出、授業中の問題解答や質疑応答への積極的参加などの授業の取り組み(30%)によって総合的に評価します。なお、成績不振者に対しては課題提出を要求する場合があります。</p>	
<p>〔教科書〕</p> <p>高専の物理(第5版)(森北出版)、高専の物理問題集(第3版)(森北出版)</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>数学の教科書、フォトサイエンス物理図録(数研出版)、プリント</p>	
<p>〔関連科目〕</p> <p>中学の数学や理科を前提にします。高専の数学は必修です。物理で学ぶ原理・法則は殆どの工学系の専門科目で応用されていきます。</p>	

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	導入	物理とは, 授業方法, 成績評価などについて説明する。	
第2週	速度と変位	(1 頁) 変位, 速度について理解する。	
第3週	加速度	(5 頁) 加速度(一次元)について理解する。	
第4週	等加速度直線運動 I	(6 頁) 加速度が正の場合の問題を理解する。	
第5週	等加速度直線運動 II	(6 頁) 加速度が負の場合の問題を理解する。	
第6週	自由落下, 鉛直投射運動	(18 頁) 重力中の一次元の運動を理解する。	
第7週	同上	同上	
第8週	力, 運動の第一法則	(8 頁) 慣性の法則について理解する。	
第9週	運動の第二法則	(11 頁) 運動方程式を理解する。(学生実験)	
第10週	運動の第三法則	(13 頁) 作用反作用の法則を理解する。	
第11週	重力, 万有引力, 弾性力	(14 頁) 万有引力やばねの弾性力について理解する。	
第12週	同上	同上	
第13週	運動方程式の作り方 I	(17 頁) 二物体以上が連結する運動の取り扱いを理解する。	
第14週	運動方程式の作り方 II	同上	
第15週	摩擦と運動	(20 頁) 水平面上で摩擦が働くときの運動を理解する。	
前期末試験			
第16週	力積と運動量	(23 頁) 運動量の変化と力積の関係を理解する。	
第17週	運動量保存の法則, 反発係数	(24 頁) 運動量保存の法則を理解する。	
第18週	仕事, 運動エネルギー	(26 頁) 力と仕事, 運動エネルギーを理解する。	
第19週	位置エネルギー	(29 頁) 重力, 弾性力による位置エネルギーを理解する。	
第20週	力学的エネルギー保存法則	(31 頁) 力学的エネルギー保存の法則を理解する。	
第21週	ベクトルとスカラー	(33, 244 頁) ベクトルの演算法則を理解する。	
第22週	三角関数の導入	(245 頁) 三角関数の基本演算を理解する。	
第23週	力, 力の釣り合い	(35, 243 頁) 力の合成, 分解, 釣り合いを理解する。	
第24週	運動方程式(二次元)	(39, 41 頁) 平面の運動方程式, 放物運動を理解する。	
第25週	仕事の原理, 斜面上の運動	(41, 43 頁) 斜面を利用した物体の運動を理解する。	
第26週	等速円運動	(44 頁) 弧度法を理解し, 角速度, 周期, 周波数などを理解する。	
第27週	同上	(45 頁) 等速円運動における速度, 加速度, 向心力を理解する。	
第28週	等速円運動(実験)	等速円運動を理解する。(等速円運動に関する実験)	
第29週	惑星の運動	(46 頁) 惑星の運動に関するケプラーの法則を理解する。	
第30週	人工衛星の運動	(47 頁) 万有引力に由来する人工衛星の運動を理解する。	
学年末試験			

*4: 完全に理解した, 3: ほぼ理解した, 2: やや理解できた, 1: ほとんど理解できなかった, 0: まったく理解できなかった。

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

<p style="text-align: center;">化 学 I (Chemistry I)</p>	<p style="text-align: center;">1 年・通年・3 単位・必修 機械, 電子制御工学科・担当 北村 誠 電気, 情報工学科 ・担当 堀内 健</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 私たちの身の回りの物質がどのように構成されているかを理解すること、さらに、物質の性質や物質の変化にかかわる自然現象を化学的に考えて、解釈することを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 物質を構成している原子・分子・イオンなどの基本粒子を学び、粒子から物質が出来るしくみ、粒子と物質の量的関係、化学変化による物質の変化・状態変化を学ぶ。さらに、中和反応と酸化還元反応を学ぶ。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 数学的な取り扱いが多いが、ある種道具として捕らえ、何を求めているかを常に念頭に置き、復習すること。化学はともすれば暗記科目のように見られているが、すこしの暗記はあるが、基礎事項をしっかり理解できれば系統的に理解できる科目です。復習をしっかりとすることが大切です。そのために小テストを度々行う。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期中間試験: 1) 物質の構成の理解、2) 原子構造の理解、3) 物質の精製法、4) 物質量の理解 前期末試験: 1) 化学結合の理解、2) 物質の三態の理解、3) 溶解のしくみと溶解度の理解 後期中間試験: 1) 希薄溶液の性質、2) 浸透圧、3) 化学反応式、4) 熱化学方程式 学年末試験: 1) 化学平衡の理解、2) 中和反応の理解、3) 酸化還元反応の理解、4) 電気化学反応の理解</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績（70％）に小テスト点、課題および実験レポート点（30％）を含めて総合評価する。定期試験ごとに提示する達成目標を各々クリアする事で単位認定の原則とする。</p>		
<p>〔教科書〕 「新編 高専の化学」, 森北出版, 春山志郎 監修</p> <p>〔補助教材・参考書〕 「参考書名: 最新図説化学」, 第一学習社, 佐野博敏・花房昭静 監修, 「参考書名: セミナー化学基礎+化学」, 第一学習社, 第一学習社編集, 「補助教材: 配布プリント」</p>		
<p>〔関連科目〕 2 年で習う化学と併せて 5 単位が高専で習う化学のすべてである。しかし、工学で学ぶ者にとって化学は、数学や物理などとともに重要な基礎科目であり、卒業研究をするときや、就職後に必ず必要となる科目である。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	物質の構成、元素・単体・化合物	自然界に存在する物質がどのように構成されているのかを説明する。	
第 2 週	同素体、純物質と混合物	純物質・混合物の違いについて説明する。	
第 3 週	精製、化学変化と物理変化	混合物から純物質を取り出す方法を解説する。	
第 4 週	物質を構成する基本粒子	物質がどのように構成されているかを説明する。	
第 5 週	原子の構造	原子の構造が、原子核と電子から成り立っていることを説明する。	
第 6 週	電子の配置	原子により電子の配置の仕方が異なることを説明する。	
第 7 週	価電子	価電子とはどういうものかを、電子構造より解説する。	
第 8 週	イオンの生成	化学反応の基本粒子であるイオンとは何かを理解させる。	
第 9 週	元素の周期表	元素の周期表について説明する。	
第 10 週	化学式と原子価	物質の表し方を化学式を通じて理解させる。	
第 11 週	物質質量	化学計算の基本になる物質質量について理解させる。	
第 12 週	イオン結合と共有結合	イオン結合と共有結合について説明する。	
第 13 週	水素結合と金属結合	水素結合・金属結合について説明する。	
第 14 週	物質の三態とその変化	固体・液体・気体の性質を説明し、気体の法則を理解させる。	
第 15 週	溶解のしくみと溶解度	濃度の計算法および固体の溶解の仕組みについて理解させる。	
前期期末試験			
第 16 週	希薄溶液の性質	希薄溶液の性質から沸点上昇・凝固点降下について説明する。	
第 17 週	希薄溶液の法則	希薄溶液の性質と分子量の関係について説明する。	
第 18 週	浸透圧	半透膜、浸透圧について説明し、ファントホッフの法則を理解させる。	
第 19 週	物質の変化	化学反応式を理解させる。	
第 20 週	化学変化と反応熱	化学変化により生じる熱について説明する。	
第 21 週	化学変化の量的関係	化学反応を通じて物質質量がどのような関係にあるかを理解させる。	
第 22 週	化学変化と熱の出入り	熱化学方程式を用いて化学反応に伴う熱の出入りを理解させる。	
第 23 週	反応熱の測定	反応熱の測定法をヘスの法則を通じて理解させる。	
第 24 週	化学変化の速さ、化学平衡	化学平衡および平衡定数について学習し、平衡移動の原理を理解させる。	
第 25 週	酸と塩基の反応	アレニウスおよびブレンステッド・ローリーの酸・塩基を理解させる。	
第 26 週	中和と塩	中和反応および塩の性質について理解させる。	
第 27 週	中和滴定	中和滴定の方法、指示薬、滴定曲線について理解させる。	
第 28 週	酸化還元反応	電子の授受・酸化数の考え方を通じて酸化還元反応を理解させる。	
第 29 週	電池	ボルタ電池、マンガン乾電池の構造と化学変化について理解させる。	
第 30 週	電気分解	ファラデーの電気分解の法則を通じて電気分解における量の関係を理解させる。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">保健・体育 I (Health and Physical Education I)</p>	<p style="text-align: center;">1 年・通年・2 単位・必修 5 学科共通：中西茂巳、森 弘暢</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動実践を通して技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、健康の保持増進のための実践力と体力の向上を図り、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。 武道としての柔道は伝統的な運動文化として発展してきたものであり、相手と直接組み合い、競い合う運動である。基本動作を身につけるとともに、安全に運動が行えるようにする。 		
<p>〔講義の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力を高め、運動を楽しむ態度を育てるために、各種の運動を実践し、競技ごとの技術やルール、社会性、身体に関する知識を学ぶ。柔道では安全に受け身をとることを第一とし、投げ技と固め技に習熟し、練習や試合ができるようにする。礼法を重んじ、相手を尊重し、協力する態度を育てる。 		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 次ページの講義項目の実施順序は記載どおりとは限らない。天候等の理由により、適宜変更する可能性があるため、体育委員が毎回集合場所や準備物に関する連絡係の役目を果たしてほしい。定期試験は行わない。各時間における授業への取り組みとその積み重ねを重視する。 		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動技術に関する基礎的な技能及び知識を身につけ、運動に親しむ態度を養う。 自分の持っている能力をよりよく発揮し、相手と共に公平に練習できるようになる。 		
<p>〔評価方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業時の課題への取り組み状況（60%）、運動技術及び知識の習熟度（40%）を総合して評価する。 		
<p>〔教科書〕 『保健体育概論改訂増補版』近畿地区高専体育研究会編、晃洋書房</p> <p>〔補助教材・参考書〕 『アクティブスポーツ【総合版】』、大修館書店</p>		
<p>〔関連科目〕</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	オリエンテーション	5年間の授業の進め方と、1年次での年間計画をふまえての心構えと道具の管理方法について理解する。	
第2週	体力・運動能力調査	文部科学省が定める「新体力テスト」を実施する。	
第3週	同上	同上	
第4週	同上	同上	
第5週	柔道 基本動作①礼法・姿勢	武道としての特性から、特に、公正さ、相手を尊重する態度や協力する態度が必要であり、礼法を重んじることを理解する。	
第6週	一般体育（ソフトボール）	ソフトボールのルールを知り、基本技術を身につける。	
第7週	柔道 基本動作②組手・進退動作	第5週と同じ	
第8週	一般体育（ソフトボール）	チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第9週	柔道 基本動作③ 体捌き	体捌きや受け身の習得、練習を通して、転倒時など日常生活での傷害の防止にも役立つことを理解する。	
第10週	一般体育（バレーボール）	バレーボールのルールを知り、基本技術を身につける。	
第11週	一般体育（水泳）	水の特性を理解して泳法の練習を行い、水泳についての基礎的な知識及び技術を習得する。	
第12週	同上	同上	
第13週	同上	同上	
第14週	柔道 基本動作④ 受け身	受け身の習得、練習を通して、転倒時など日常生活での傷害の防止にも役立つことを理解する。	
第15週	一般体育（バレーボール）	チームを編成し、簡易ゲームができるようにする。	
第16週	柔道 基本動作⑤ 崩し・作り	技を掛けるまでの段階として、相手の体のバランスをどのようにして崩し、合わせて、自分の体をどのように技の形に作るかを理解する。	
第17週	一般体育（バスケットボール）	バスケットボールのルールを知り、基本技術を身につける。	
第18週	柔道 基本動作⑥ 崩し・作り	第16週と同じ	
第19週	一般体育（バスケットボール）	チームを編成し、簡易ゲームができるようにする。	
第20週	柔道 対人技能 投げ技（手技・腰技・足技）	筋力や瞬発力のほか、持久力、調整力など、総合的に気力・体力を高めることができ、精神力や集中力が養われることを理解する。	
第21週	一般体育（サッカー）	サッカーのルールを知り、基本技術を身につける。	
第22週	柔道 対人技能 投げ技（手技・腰技・足技）	第20週と同じ	
第23週	一般体育（サッカー）	チームを編成し、簡易ゲームができるようにする。	
第24週	柔道 対人技能 投げ技（手技・腰技・足技）	第20週と同じ	
第25週	一般体育（バドミントン）	バドミンントンのルールを知り、基本技術を身につける。	
第26週	柔道 対人技能 固め技（抑え技・絞め技・関節技）	第20週と同じ	
第27週	一般体育（バドミントン）	ダブルスでのゲームができるようにする。	
第28週	柔道 対人技能 固め技（抑え技・絞め技・関節技）	第20週と同じ	
第29週	一般体育（バドミントン）	シングルスでのゲームができるようにする。	
第30週	まとめ		

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）

美術 (F i n e A r t s)	1 年 ・ 半 期 ・ 1 単 位 ・ 必 修 5 学 科 共 通 ・ 平 田 裕 信	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)		
〔講義の目的〕 当講座では絵画・デザイン・イラストなどに加えデジタルによる表現と共に多様な美術表現の可能性を学ぶ。 実習と講義により美術への関心と美意識の向上に努める。		
〔講義の概要〕 高校生レベルの美術の知識と創作表現を知り、教材を使い表現方法を模索する。 美術についての関心と創作者(ものづくり)としての教養を身につける。		
〔履修上の留意点〕 授業内での作品の完成、提出期限、課題テーマにおいて丁寧な作業と取り組みを重視する。 期限を過ぎた場合は提出点のみとなる。授業内での作品完成を目指す、自宅学習での完成を求めることもある。また、期限内に未完作品の提出を求めることもある。		
〔到達目標〕 与えられた課題についての理解と表現力を養い、丁寧な作業で作品の美的調和を目指す。 芸術的行為や作品に興味を持ち、創作と美的感性の向上を目指す。		
〔評価方法〕 作品への取り組みと期限内提出を基本に、課題達成の評価を(80%)する。 授業への取り組みと小テスト(20%) (原則として3年次以降での不可評価の解消は許可しない)		
〔教科書〕 〔補助教材・参考書〕 絵具などの画材は、個人負担を原則とする。教科書は使わない。課題プリント等配布する。 画用紙などは共同購入する。		
〔関連科目〕		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	授業内容の説明 個々の表現力を見る	美術と画材について説明 想定描写幾何形態	
第2週	描写・立体表現 課題1	鉛筆デッサン(鉛筆の削り方、持ち方) 画材(鉛筆、絵具)の歴史について	
第3週	同上	立方体を各人ケント紙で作成 立方体と手を素材として描く	
第4週	同上	空間表現法―東洋と西洋の差異 遠近透視図法の表現の試み 校内写生	
第5週	色彩による表現 課題2	前課題の講評 立方体による色彩表現	
第6週	同上	色彩学の基礎学習(色彩構成)とその活用と色の調査 3種の立方体を素材として色彩構成	
第7週	同上		
第8週	同上	作業後に提出、講評	
第9週	デジタル表現 課題3	デジタル表現のための説明 校内風景写生(鉛筆スケッチ)に画像処理ソフトで着色	
第10週	同上	デジタル表現による実習、作画、動画などCGによる制作	
第11週	同上		
第12週	自由表現 課題4	プリントを配布、 各人自分の好みのテーマを選び作品にする。	
第13週	同上	各人の多様な表現意欲を育てるための表現素材や 資料の提供に便宜をはかる	
第14週	同上		
第15週	まとめ	小テスト、鑑賞	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

音 楽 (M u s i c)	1 年 ・ 半 期 ・ 1 単 位 ・ 必 修 5 学 科 共 通 担 当 荒 巻 徳 代	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)		
〔講義の目的〕 音学の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
〔講義の概要〕 校歌の合唱や多くの歌唱曲に親しみ、多様な表現形態による歌唱を体験する。オペラ・ミュージカルの舞台芸術を鑑賞し、それらの文化的・歴史的背景に関心を持ち、そのよさや価値について考え味わう。フォークギターでストローク奏法を練習し、弾き語りの楽しさを味わう。		
〔履修上の留意点〕 無理のない発声練習により、音域を広げ、音色を整えて、伸びやかな歌唱を目指して欲しい。楽典の知識を深めることで、より音楽を楽しめることを理解し、積極的に授業に臨んでほしい。		
〔到達目標〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間試験（楽典・オペラとミュージカルの比較） ・ 高専の校歌をしっかりと歌えるようにする。ギターコードを弾けるようになる。 		
〔評価方法〕 歌唱テスト(3割)、定期試験(3割)、自由曲演奏テスト(3割)、授業への取り組み、提出物(1割)を合わせて総合評価する。		
〔教 科 書〕 『音楽 I Tutti』（教育出版） 〔補助教材・参考書〕 楽譜プリント・楽典問題プリント		
〔関連科目〕		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第1週	ガイダンス	発声練習の目的・役割を説明。中間試験の内容・実技試験の評価基準を説明	
第2週	歌唱・楽典	発声練習・教科書の歌唱・校歌練習 音符と休符について説明	
第3週	同上	発声練習・教科書の歌唱・校歌練習 音楽用語の種類について説明	
第4週	オペラ鑑賞	「カルメン」 ビゼー作曲	
第5週	ミュージカル鑑賞	「サウンド・オブ・ミュージック」 R. ロジャース作曲	
第6週	4、5週のとまとめ	オペラとミュージカルの違いについて解説	
第7週	歌唱テスト	課題曲をピアノ伴奏で歌唱	
第8週	楽典	中間試験 出題範囲のまとめを解説	
第9週	ギター練習	クラシックギターとフォークギターの説明 各名称や奏法の説明と取り扱いの注意	
第10週	ギター・歌唱	簡単なコードから練習、音階（ハ長調）練習、配布プリント 曲を歌唱	
第11週	同上	コードを少しずつ増やして練習、教科書・プリントの曲を歌 唱	
第12週	同上	ギター練習と歌唱、実技試験の自由曲を各自練習する	
第13週	同上	同上	
第14週	実技試験	歌唱、その他楽器での自由曲の演奏試験 二人以上の場合はそれぞれ役割分担が必要	
第15週	同上	同上	
期末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

英語 I (English I)	1 年・通年・5 単位中の 2 単位・必修 電気工学科・担当 神澤 和明	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (3)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>英語運用能力の素地を養い、正確な英語の 2 技能（読み・書き）の習得を目指す。文法を単元別に学習することにより、各単元の知識を深め、将来必要とされる正確な文法分析力、英語表現力の育成を図る。英語 I のなかで連携をとりながら、総合的な英語力を高める。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>単元別に文法事項を学習していく。学習内容の定着を促すために、単元ごとに小テストを行うようにする。教科書を中心に講義を進め、補助教材で各自が復習を行い、問題を解く速度を上げていけるようにする。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>学習単元を徹底理解するためには、予習復習は欠くことができません。新しい単元を学習する際には、必ず各自が予習を行い、文法理解の妨げにならないよう未習の単語などは調べたうえで講義に臨むこととする。講義中は、ノートを取り、復習に役立てるよう工夫すること。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 文の種類、文型、時制、完了形 前期末試験： 助動詞、態、不定詞 後期中間試験： 動名詞、分詞、比較 学年末試験： 関係詞、仮定法、時制の一致と話法</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験 (60%) , 小テスト(20%), 課題、授業での取り組み (20%)</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>・総合英語 Forest Intensive English Grammar in 27 Lessons 7th Edition (桐原書店)</p> <p>〔補助教材〕</p> <p>・総合英語 Forest Intensive English Grammar Training Book 7th Edition (桐原書店)</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>英語 I (3 単位分)</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス・文の種類	授業の進め方と説明、文の種類	
第2週	動詞と文型(1)	第1文型、第2文型、第3文型	
第3週	動詞と文型(2)	第4文型、第5文型	
第4週	動詞と時制(1)	現在形、現在進行形、過去形、過去進行形	
第5週	動詞と時制(2)	未来形	
第6週	完了形(1)	現在完了形、現在完了進行形	
第7週	完了形(2)	過去完了形、過去完了進行形、未来完了形	
第8週	前期中間試験		
第9週	助動詞(1)(2)	能力・許可・義務・必要・可能性・推量を表す助動詞	
第10週	助動詞(3)	need/ used to、助動詞+have+過去分詞	
第11週	態(1)	受動態の基本形、SV00の受動態	
第12週	態(2)	SV0Cの受動態、注意すべき受動態	
第13週	不定詞(1)(2)	3用法、SV0+to不定詞、不定詞意味上の主語	
第14週	不定詞(3)	使役動詞・知覚動詞を使った表現	
第15週	まとめ・総復習	これまでの学習のまとめ	
前期期末試験			
第16週	動名詞(1)	動名詞の働き	
第17週	動名詞(2)	動名詞と不定詞	
第18週	分詞(1)	分詞の限定用法、叙述用法	
第19週	分詞(2)	分詞構文	
第20週	比較(1)	原級・比較級・最上級	
第21週	比較(2)	最上級を使った比較	
第22週	まとめ・総復習	これまでの学習のまとめ	
第23週	後期中間試験		
第24週	関係詞(1)	主格・目的格・所有格	
第25週	関係詞(2)	that、前置詞+関係代名詞、what	
第26週	関係詞(3)	継続用法、関係副詞	
第27週	仮定法(1)	直説法、仮定法過去、仮定法過去完了	
第28週	仮定法(2)	未来のことを表す仮定法、慣用表現	
第29週	時制の一致と話法	時制の一致、直接話法、間接話法	
第30週	まとめ・総復習	これまでの学習のまとめ	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

英語 I (English I)	1 年・通年・5 単位の中の 3 単位・必修 電気工学科・担当 前田 哲宏	
〔準学士課程（本科 1－5 年） 学習教育目標〕 (3)		
〔講義の目的〕 「読む・書く・話す・聞く」の 4 技能を総合的に学習し、基本的な文法、構文に対する理解力や語彙力を身につけることを目的とする。国際社会で交流する際に必要な、外国の歴史や文化や考え方に対する理解も深まるように指導したい。		
〔講義の概要〕 教材毎に、精読、速読、コミュニケーションに重点を置いて指導するが、特に文法力や単語力の育成に留意する。精読では、文法や構文に留意して正確な英文解釈、内容把握をさせる。速読では、英語の流れに従って、短時間に正確にポイントを把握させる。コミュニケーションでは、積極的に英語を運用させる。		
〔履修上の留意点〕 新出単語・連語は必ず予習すること。各レッスンのまとめにある Grammar Points を理解できるようにすること。毎週実施される単語テストは語彙力をつけるために必要であるので真剣に取り組むこと。		
〔到達目標〕 各レッスンの新出文法事項を理解し、運用できるようにする。各レッスンの内容把握を深めるために、各パラグラフに何が書かれているかを読み取るようにする。新出の単語・熟語を定着させる。 前期中間試験：Lesson 1～Lesson 2 ①It の用法 ②to 不定詞 ③現在完了進行形 ④過去完了形 ⑤動名詞 前期末試験：Lesson 3～Lesson 5 ①関係代名詞 ②助動詞 ③受動態 ④分詞 ⑤比較⑥原型不定詞 ⑦SVO+if 節 ⑧wh-節 後期中間試験：Lesson 6～Lesson 7 ①関係副詞 ②助動詞+have+過去分詞 ③過去完了進行形 ④知覚動詞+O+現在分詞(過去分詞) 学年末試験：Lesson 8～Lesson 10 ①仮定法過去 ②関係代名詞の非制限用法 ③seem+to 不定詞 ④分詞構文 ⑤未来完了 ⑥前置詞+関係代名詞 ⑦仮定法過去完了⑧否定		
〔評価方法〕 定期試験（60％）と小テスト（20％）、課題、授業での取り組み・発表（20％）を加えて総合的に評価する。		
〔教科書〕 Genius English Communication I (大脩館書店) 〔補助教材〕 新訂版 WORD-MEISTER 英単語・熟語 4500 (第一学習社)		
〔関連科目〕 様々な情報が身の回りにあり、各レッスンを学ぶときに関係してくるので、常に新聞、雑誌、ニュースなどに注意しておくこと。また、英語の読解力や表現力を伸ばすためには、国語の理解力が必要であるので、国語の学習にも留意すること。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第1週	ガイダンス、Lesson 1 <i>A Village of One Hundred</i>	100 人の村が抱える様々な問題点を描く。 to 不定詞・It の用法	
第2週			
第3週			
第4週	Lesson 2 <i>Three Cups of Tea</i>	K2 の頂点を目指した男性が見つけた大切なものとは？ 現在完了進行形・過去完了形・動名詞	
第5週			
第6週			
第7週	Lesson 3 <i>More Than Just a Piece of Cloth</i>	風呂敷から伝統文化を考える。 関係代名詞・助動詞・受動態	
第8週	前期中間試験		
第9週	Lesson 3		
第10週			
第11週	Lesson 4 <i>Borneo's Moment of Truth</i>	自然豊かなボルネオが危機にさらされている。 分詞・比較	
第12週			
第13週			
第14週	Lesson 5 <i>Alex's Lemonade Stand</i>	「レモネードを売ったお金をお医者さんに寄付する」4 歳の少女がアメリカを動かした。 原形不定詞・SVO 節・wh-節	
第15週			
前期末試験			
第16週	Lesson 5		
第17週	Lesson 6 <i>Magic and the Brain</i>	マジックは脳が見せる幻想の世界。 関係副詞・助動詞+have+過去分詞	
第18週			
第19週			
第20週	Lesson 7 <i>Mother of Women's Judo</i>	女子柔道界を切り拓いたアメリカ人女性。 過去完了進行形・知覚動詞+O+現在分詞(過去分詞)	
第21週			
第22週	後期中間試験		
第23週	Lesson 8 <i>Water Crisis</i>	生活に欠かせない「水」。日本は水の輸入国だった。 仮定法過去・関係代名詞の非制限用法・seem+to 不定詞	
第24週			
第25週			
第26週	Lesson 9 <i>Coffee and Fair Trade</i>	コーヒーから適正な労働環境を考える。 分詞構文・未来完了	
第27週			
第28週			
第29週	Lesson 10 <i>Life in a Jar</i>	第二次大戦下のポーランドで 2500 人のユダヤ人を救った女性がいた。 前置詞+関係代名詞・仮定法過去完了・否定	
第30週			
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した、3 : ほぼ理解した、2 : やや理解できた、1 : ほとんど理解できなかった、0 : 全く理解できなかった、

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

環境リテラシ(Environmental Literacy)		1 年・後期・1 単位・必修 電気工学科・担当 藤田直幸	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)			
〔講義の目的〕 電気・電子技術は、便利な世の中を作ることに貢献してきた。しかし、これからは、便利さだけではなく、環境に配慮した技術が重要となってくる。そのような背景の中、技術者には環境問題に対する理解が必要となっている。そこで、本科目では、電気系エンジニアとして必要な「環境問題の本質の理解」、「環境データを読み解き、未来を予測する力」などを育成し、環境問題に常に興味を払う環境マインドの涵養を目指す。			
〔講義の概要〕 「環境問題に関するディベート」と「2030 年の TV のニュース番組作成」を通じて、学生自らが環境問題に関するデータを収集・整理・分析・発信する作業を行う。これらの活動を通じて、能動的に環境問題にかかわる力を身に付けさせる。			
〔履修上の留意点〕 教員から、直接的な環境問題に対する知識の提供は行わない。教員は、学生が主体的、能動的に学習できるよう環境の構築、助言を行う。そのため、学生自らが積極的に授業に関わる必要がある。また、多くの作業はグループワークで行うため、協力して進めること。			
〔到達目標〕 後期中間試験:環境問題に興味を持ち続ける態度を身につける。 学年末試験:環境問題に興味を持ち続ける態度を身につける。 (断片的な知識の習得が目標ではなく、技術者として必要な環境問題に関わる態度を養成する)			
〔評価方法〕 上記に提示した達成目標をクリアする事を単位認定の原則とする。 ①環境問題の本質の理解に向けて努力したか(学習記録、ディベート、TV 番組) 25%、②環境問題の本質について自分なりの理解ができたか(ディベート学習) 25%、③複数の環境データを読み解く力が付いたか(TV 番組作成学習) 25%、④環境データから自分なりに未来を予測する力が付いたか(TV 番組作成学習) 25%			
〔教科書〕 特になし。			
〔補助教材・参考書〕 環境・循環型社会・生物多様性白書、エネルギー白書、原子力安全白書			
〔関連科目〕 本科目は、電気工学科の全ての科目が関係する。			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	講義の目標や進め方、コンピュータシステムの登録 ディベート班分け	
第2週	ディベートで環境問題を学ぶ①	ディベート資料の収集①	
第3週	ディベートで環境問題を学ぶ②	ディベート資料の収集②	
第4週	ディベートで環境問題を学ぶ③	ディベート資料の収集③	
第5週	ディベートで環境問題を学ぶ④	ディベートの実施①	
第6週	ディベートで環境問題を学ぶ⑤	ディベートの実施②	
第7週	ディベートで環境問題を学ぶ⑥	ディベートで学んだことを一般化して、「環境問題の解決に必要な要素」は何かを考える	
第8週	ニュース番組作りで環境問題を学ぶ①	課題についての説明 資料の収集①	
第9週	ニュース番組作りで環境問題を学ぶ②	資料の収集②，資料の加工①，シナリオ作成①	
第10週	ニュース番組作りで環境問題を学ぶ③	資料の収集③，資料の加工②，シナリオ作成②	
第11週	ニュース番組作りで環境問題を学ぶ④	資料の収集④，資料の加工③，シナリオ作成③	
第12週	ニュース番組作りで環境問題を学ぶ⑤	シナリオの作成④，番組撮影①	
第13週	ニュース番組作りで環境問題を学ぶ⑥	番組撮影②，編集	
第14週	ニュース番組作りで環境問題を学ぶ⑦	発表会	
第15週	ニュース番組作りで環境問題を学ぶ⑧	ニュース番組作りで学んだことを整理	

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">基礎電気回路 (Foundations of Electrical Circuits)</p>	<p style="text-align: center;">1 年・通年・2 単位・必修 電気工学科・担当 石飛 学</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>電気工学の基礎として、電気を使用される電圧、電流などの基本用語や使用される単位を理解し、またキルヒホッフの法則や等価回路変換など電気の基礎理論を習得することで、直流回路の解析能力を身に着ける。1 年を通して中学校時代の勉強方法からの脱却も図る。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>電気回路がエネルギーを扱ったものであることを認識するところからスタートする。続いて家電、電気自動車や省エネ技術等 電気回路の身近な応用例を雑談に挟みながら、直流回路パズルを解くための基礎力を身に着ける。後半では、LED 駆動回路や太陽電池の能力を最大限に引き出す方法など学び、これらを通して直流回路における基礎力の定着を図る。最後に 2 年生以降の回路の世界に繋いでいく。この授業では、電気工学科とはどんなところか？ この先どうなっていくのか？ どのように勉強したら良いか等の話題も提供する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>次の勉強方法が通用しなくなってくるので、早い時期にチェンジしてほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中板書の写しに専念し、後で読み返しながら問題演習する方法 2) 定期テスト前などに問題演習を繰り返し、パターンを身に着ける方法 <p>最初慣れないかもしれないが、板書の全コピーを止めて必要な個所だけメモし（口頭で“重要”と念押しする個所は特に大事。耳を使って！）、その場で考えて修得するよう努めてほしい。一方的な授業はつまらないので、相互にキャッチボールしながら進めていきたい。質問攻撃を望む。疑問点が残った場合は、放課後等利用して早めに質問や相談に来ること。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：1) 電気の性質、2) 電気量と電流、3) 電氣的エネルギーと仕事、4) 電位や起電力</p> <p>前期末試験：1) オームの法則、2) 直並列接続の合成抵抗の導出、3) 分圧及び分流、4) 電気抵抗の性質、5) キルヒホッフの法則を用いた回路解析</p> <p>後期中間試験：1) 重ねの理を用いた回路解析、2) ダイオードの等価回路と LED 駆動回路の設計、3) 太陽電池の特性と等価回路、4) ブリッジ回路とその応用</p> <p>学年末試験：1) 鳳-テブナンの等価回路、2) ノートンの等価回路、3) 帆足ミルマンの定理、4) 整合、5) 各種電源(周波数・周期他) 等 以上の修得</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績（70%）とその他（小テスト、課題など）（30%）の総合評価にて行う。 定期試験ごとの達成目標を各々クリアーすることで、単位認定の原則とする。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「電気の基本としくみがよくわかる本」、ナツメ社、福田 務 著 … この教科書は 5 年間通して使う参考書となります。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「はじめて学ぶ 電気回路計算法の完全研究」、オーム社、永田 博義 著 補助教材は適宜準備</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>電気系教科すべての基礎となるため、とても重要である。特に、2 年次からはじまる電気回路Ⅰに直接繋がっていくため、暗記ではなく、用語や単位、基礎法則の意味をしっかりと理解すること。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	電気を学ぶとは？ 電気とは何か？	本学科では何を何のために学ぶのか、また本授業で習得できることや進め方など、イントロダクションを行う。その後、電気とはそもそも何か、どこにあるのか（電荷について等）再確認する。	
第2週	電気の大きさとは？	まず電気の歴史を簡単に確認し、電荷の性質、大きさの表し方を学ぶ。	
第3週	電流の正体は？	電流の正体とその単位、特性について学ぶ。	
第4週	電気エネルギーとは？	エネルギー、仕事とは何か、その表し方と性質（保存則等）を学ぶ。	
第5週	電位とは？	エネルギーの観点から電位、電位差、電圧が何を表しているのか学ぶ。	
第6週	直流回路、電力とは？	これまでの講義と直流回路を結びつけ、その構成と考え方を理解する。ここで起電力、電力、電力量、効率及び回路の描き方も扱う。	
第7週	確認と演習	これまで習得した内容の確認と演習を行う。	
第8週	抵抗とオームの法則	まず定期テストの結果をもとに勘違い点、ミスしやすい点を確認する。次に電気抵抗とオームの法則について確認する。	
第9週	抵抗の性質	電気抵抗の性質と抵抗率、導電率について学ぶ。その後、直列、並列、直並列接続した抵抗の合成抵抗値の求め方を確認する。	
第10週	直流回路演習（1）	回路演習を行い、複数の抵抗をもつ直流回路の解析方法と、分圧及び分流の考え方を身につける。	
第11週	電圧降下、回路網から キルヒホッフの法則へ	電圧降下、回路網と回路網の法則（キルヒホッフの法則）を学ぶ。また、これを用いた計算法（枝電流法）を学ぶ。	
第12週	直流回路演習（2）	演習を通して、枝電流法を修得する。（枝電流法に関する演習（整数解が出る問題作成等）を夏休みの宿題とする。）	
第13週	網目電流法	網目電流法を用いた直流回路の解析法を学ぶ。	
第14週	直流回路演習（3）	演習を通して、網目電流法を修得する。	
第15週	確認と演習	これまで習得した内容の確認と演習を行う。	
前期期末試験			
第16週	重ねの理	まず定期テストの結果をもとに勘違い点、ミスしやすい点を確認する。次に、重ねの理と、これを用いた回路解析について学ぶ。	
第17-18週	LED 駆動回路の設計	ダイオードの扱い方（等価回路を含む）を学び、LED 駆動回路の設計を行う。E 系列も考慮し、複数の LED 駆動回路等用いて演習を行う。	
第18-19週	太陽電池	等価回路を使いながら太陽電池の特性を学び、その能力を最大限に引き出す方法についても修得する。	
第20-21週	ホイートストンブリッジ とブリッジ回路の応用	ホイートストンブリッジの考え方を学ぶ。その後、ブリッジ回路を応用した各種回路パズルを通し、考え方の定着を行う。	
第22週	確認と演習	これまで習得した内容の確認と演習を行う。	
第23-24週	鳳-テブナンの定理	まず定期テストの結果をもとに勘違い点、ミスしやすい点を確認する。次に鳳-テブナンの定理とこれを用いた等価回路の導出法を学ぶ。	
第25週	直流回路演習（5）	演習を通して、テブナンの等価回路が導出できるようにする。（テブナンの等価回路導出に関する演習を冬休みの宿題とする。）	
第26週	ノートンの定理	ノートンの定理とこれを用いた等価回路の導出法を学ぶ。	
第27週	帆足 - ミルマンの定理 直流回路における整合	テブナン及びノートンの定理から帆足 - ミルマンの定理を導出し、また直流回路における整合（マッチング）について学ぶ。	
第28-29週	2 年生に向けて	回路素子（L,C,R）について、 Δ -Y 変換、アナログからデジタルへ、交流入門等、クラスの状況に合わせて内容を選択する。	
第30週	確認と演習	これまで習得した内容の確認と演習を行う。	
学年末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）

<p>情報リテラシ (Information Literacy)</p>	<p>1 年・前期・1 単位・必修 電気工学科・担当 小坂 洋明</p>	
<p>[準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標] (2)</p>		
<p>[講義の目的] 本科目は情報処理のための基礎技術習得を目的とする。(1) タイピング、(2) ワードプロソフトによる文書作成、(3) 表計算ソフトによるデータ処理、(4) プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成、(5) 以上の技術の総合的な活用、の 5 つができることを目標とする。</p>		
<p>[講義の概要] パソコンを用いた演習を中心に授業を進める。タイピング練習後、教科書に沿ってワードプロソフト (Word) 表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (Power Point) の使い方を基礎から学ぶことを通して、文書作成、データ処理、発表に必要な技術を習得する。</p>		
<p>[履修上の留意点] いわゆるパソコンスキルは今後必須の能力である (まず 2 年生以上の実験レポート作成時に必要になる)。本科目で取り上げる内容は、必ず十分にできるようになって欲しい。また、「習うより慣れる」という言葉が当てはまる科目である。パソコンが苦手な人は、授業時間に限らず多くの時間をかけて慣れ、修得に努めてほしい。</p>		
<p>[到達目標] タイピングができる。Word および Excel が使いこなせる (簡単なレポート作成ができる程度)。Powerpoint の使い方を習得する。以上のソフトを使った総合的な活用ができる。</p>		
<p>[評価方法] 課題 (60%)、総合的な活用 (20%)、タイピングテスト (10%)、授業への取り組み (10%) により評価する。定期試験は行わない。</p>		
<p>[教科書] ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシー Office 2013 対応、実教出版</p> <p>[補助教材・参考書] 自分に合った Word、Excel、Power Point の本を見つけて参考にして欲しい。</p>		
<p>[関連科目] プログラミング (2 年)、電気・電子工学実験 I ～IV (2 ～ 5 年)</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	授業の概要説明、パソコンの基本操作、タイピング	
第2週	Word の基本操作（1）	文字入力の基本、文字に飾りをつける	
第3週	Word の基本操作（2）	図の挿入、表の作成	
第4週	Word の基本操作（3）	ビジュアルな文書作成	
第5週	Word の総合演習	課題文書の作成	
第6週	Excel の基本操作（1）	データ入力の基本、計算式の入力、体裁を整える	
第7週	Excel の基本操作（2）	グラフの作成、表・グラフの印刷	
第8週	Excel の基本操作（3）	関数の利用、並べ替えと抽出	
第9週	Excel の総合演習	課題データ処理及び表・グラフ作成	
第10週	Power Point の基本操作（1）	簡単なプレゼンテーション作成、オブジェクトを挿入する	
第11週	Power Point の基本操作（2）	Excel の利用、効果的なプレゼンテーション	
第12週	Power Point の総合演習	課題プレゼンテーションの作成	
第13週	総合的活用（1）	Word、Excel、Power point の総合的活用	
第14週	総合的活用（2）	Word、Excel、Power point の総合的活用	
第15週	総合的活用（3）	Word、Excel、Power point の総合的活用	

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">電気電子工学入門 (Introduction to Electrical Engineering and Electronics)</p>	<p style="text-align: center;">1 年・前期・1 単位・必修 電気工学科・担当 藤井 治久・平井 誠</p>	
<p>〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>新入生に対して開講されるこの科目は、(1) 電気・電子工学への興味と関心を持つ (2) 自主的、継続的に学習する意欲を身につける (3) 情報検索および発表能力を身につけることを目的に講義と共に演習、実習を行う。この科目の終了時には、受講生が電気工学科で 5 年間どんなことを学びたいのかという目標を持つことができることを総合的な目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>実験＋調べ学習＋発表とレポートがセットとなった講義形態で、電気・電子工学分野の技術について実験し、調べ、考察を行う。これによって、自身が今後 5 年間で学習する内容が実際の社会でどのように使われているかを知り、電気・電子工学への興味と関心を深める。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>積極的に学ぶ姿勢が評価される。またグループでの作業を含むので協力して実験や調べ学習を行うこと。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>(1) 受講生個人にとって、特に興味と関心の持てる電気・電子工学の分野やテーマが見つかる。</p> <p>(2) レポートなどの提出物を期限までに出す習慣が身につく。</p> <p>(3) コンピュータを使った情報収集およびプレゼンテーションの基礎が身につき、簡単なドキュメントが作成できる。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>レポート・発表 (50 %) + 授業に対する取り組み姿勢 (50 %)</p> <p>※授業に対する取り組み姿勢は、主に学習記録によって評価する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>プリントを配布して講義を行う。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>本科目は電気工学科の総ての科目が関係する。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	ガイダンス	講義の目標や進め方、コンピュータ機器の使い方	
第 2 週	電気工学入門 (1)	電気はどのようにして生み出されるのか	
第 3 週	電気工学入門 (2)	電気発生実験 (静電気、電磁誘導、太陽光発電)	
第 4 週	電気工学入門 (3)	電気はどのように使われるのか	
第 5 週	電気工学入門 (4)	電気・電子機器に使われている部品、パソコンの分解	
第 6 週	電気電子工学実験 (1)	直流回路の実験と計算 I	
第 7 週	電気電子工学実験 (2)	直流回路の実験と計算 II	
第 8 週	電気電子工学実験 (3)	交流波形の観察、交流信号の世界	
第 9 週	電気電子工学実験 (4)	電子回路の製作実験 I	
第 10 週	電気電子工学実験 (5)	電子回路の製作実験 II	
第 11 週	電気工学科探検 (1)	電気・電子分野の研究 (教員研究紹介)	
第 12 週	電気工学科探検 (2)	電気工学科の調査 (学科の特徴、卒業後の進路、満足度)	
第 13 週	電気工学科探検 (3)	調べ学習、グループでのポスター作成 I	
第 14 週	電気工学科探検 (4)	調べ学習、グループでのポスター作成 II	
第 15 週	まとめ	発表会	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

基礎製図 (Fundamentals of Drafting)	1 年・後期・1 単位・必修 開講クラス・担当 土井 滋貴	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>電気技術は、電気機器、電気設備、電子機器等の機械に設置されて活用される技術であることから、機械図面を読めることが必須となる。そこで、本講義では、電気技術関係の業務に従事する技術者に必要な機械製図、電気製図についての基礎知識の修得を目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>機械製図の基礎として、投影図（特に、等角図と第三角法）および製作図について学ぶ。その後、電気製図について学ぶ。授業の進め方は、基本的事項の講義を行い、その後、製図実習を行う。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>① 授業中は講義内容に十分に耳を傾けて、教科書に記載のない事項についてはノート等にメモをしっかりとること。</p> <p>② 難しい内容ではないので、その場で理解するよう心がけること。</p> <p>③ 製図課題の提出は期限を守ること。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>後期中間試験：①製図と規格、②製図用器具、③文字、④線の種類と用法、 ④等角図と第三角法の描き方・読み方 学年末試験：①電気製図の基礎、②回路の書き方、③フローチャートの書き方、</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験：50%、製図課題の提出：50%で評価する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>小池敏男他、電気製図、実教出版</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>配布プリント</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>電気機器工学、電気機器設計、電気法規・設備工学</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	製図の基礎 1	製図と規格, 製図用器具, 文字	
第2週	製図の基礎 2	線の種類と用法	
第3週	製図の基礎 3	投影図 (等角図, 第三角法)	
第4週	製図の基礎 4	製図実習 2 (等角図⇒等角図)	
第5週	製図の基礎 5	製図実習 3 (等角図⇒第三角法)	
第6週	製図の基礎 6	製図実習 4 (第三角法⇒等角図)	
第7週	製作図 1	図形の表し方	
第8週	製作図 2	尺度, 寸法記入法	
第9週	製作図 3	図面の描き方	
第10週	製作図 4	製図実習 5 (製作図)	
第11週	製作図 5	製図実習 6 (製作図)	
第12週	電気製図 1	電気回路の作図	
第13週	電気製図 2	アナログ回路の作図	
第14週	電気製図 3	デジタル回路の作図	
第15週	電気製図 4	フローチャートの書き方	
期末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)